

COVIMETRY 展はポーランドで最初の国際展であり、世界的な幾何学芸術を反映したものです。

COVIMETRY という名前は、COVID (CoronaVirusDesease) と GEOMETRY (幾何学的アートのあらゆる潮流：構成主義、ハードエッジ、ミニマルアート、*op-art*、コンクリートアート、*非客観的*アート、対話的ジオメトリなど) の2つの単語の組み合わせに由来します。ヨーロッパ、南北アメリカ、アジア、オーストラリアなど、多くの国から約200人のアーティストが参加しています。

私たちの作業は、アンチウイルスマスクテンプレートを作成することから始まりました。作品は、描画、ペイント、グラフィックス、コラージュ、オブジェクト、写真、ミックスメディア、コンピューターアニメーション、ビデオなど、さまざまな技術とテクノロジーで作成されています。

COVIMETRY プロジェクトは、キュレーターからアーティストに、芸術的戦略を用意しました。

1. かつて作成した画像を背景としたマスク。
2. キャンバスとしてのマスク。フレーム法の歴史的伝統と形作られたキャンバスの現代的な芸術に従って、マスクの形のために今回特別に作成した絵画。
3. フラグメントとしてのマスク。画像の一部はマスクの形状によりトリミングされています。
4. インスピレーションとしてのマスク。タウトロジーまたはマスクの形状と構造の研究に基づいて作動します。
5. 言説としてのマスク。インターディスカシップ、マルチメディア、インターメディア、トランスメディアアートはさまざまな実験に開放されています。
6. アニメーション、ビデオ、モニター、画面としてのマスク。
7. マスクの外側。マスクの形状を使用する可能性のある他の実現。すべてのメディア、技術、テクノロジー。

文明の歴史において、マスクの使用は、紀元前7000年に、ネオリシックの儀式で始まりますが、La Roche-Cotardの仮面は、これらの慣行を紀元前33,000年にまで変えることができます。何世紀にもわたって、マスクは顔に着用されるオブジェクトとして、多くの意味を持ち、多くの変容を遂げてきました。今日、アイデアやアーティファクトとしてのマスクは、現在の文化的慣習やさまざまな形の社会的コミュニケーションの影響を受けています。その結果、マスクは、かつてみられなかった対話に含まれるようになります。それらの1つは、COVIMETRY プロジェクトで開始された**芸術作品のキャリアとしてのマスクの対話**です。スペイン語の表現 *másquelaczar* に基づく (顔以上)、COVIMETRY 展で発表されたマスクは、さまざまな芸術的態度とその深い意味を提示しています。